

【4. 出土した弥生土器から見えてくるもの】

弥生土器には微妙な変化があり、そういった情報を収集することで年代のものさしとなる編年まで発展させることができます。ここでは、本日公開している土器を題材にどこに変化がみられるのかを紹介したいと思います。ぜひ、土器を見る際に参考にしてみてください。



A: 高杯 (土坑1出土)



B: 壺 (土坑1出土)



C: 甕 (土坑2出土)



D: 高杯 (土坑4出土)



E: 壺 (土坑3出土)



F: 鉢 (土坑3出土)

高杯は脚の先端部分に着目するとAは真っ直ぐ伸びているのに対して、Dは厚みがあり屈曲しています。

壺は口の部分に着目するとEよりもBの方が根本から外側に広がっています。

甕と鉢の製作方法は同じなため、底の形状がよく似ています。CとFは同時期ですが、時代が新しくなると底の部分が丸みを帯びます。

【5. まとめ】

岡遠田遺跡の発掘調査は以下の成果がありました。

- ・岡田台地上に弥生時代後期～古墳時代後期まで継続する集落を見つけることができました。
- ・近畿地方で主に確認されている屋外排水溝をもつ竪穴建物を複数棟、確認しました。このように明確な排水溝をもつ建物は県内ではほとんど見つかりません。
- ・弥生時代後期の廃棄土坑が複数基見つかると、年代を求める基準となる弥生土器が複数出土しました。
- ・焼失家屋が2棟見つかったことで、屋根材に粘土を用いていたことがわかりました。
- ・遺跡南部の溝から飛鳥～奈良時代の遺物(杯身・高杯・土馬)が出土したため、西に隣接する遠田遺跡との関連を想定することができました。

【語句説明】

- ・竪穴建物：縄文時代から奈良・平安時代まで続いた住居の形。この住居は地面を掘り込んだあとに粘土を貼って床を形成した上で、その上に屋根をかけた構造をしている。
- ・屋外排水溝：竪穴住居の付属施設で、近畿地方の生駒山地から派生した各丘陵を中心として事例が見つかっている。用途は明らかになっていないが、集落の中央から低地に向かって流れる事が多い。中央土坑から出るもの、壁溝から出るものなど様々な形がある。
- ・土馬(陶馬)：馬の形をした土製品。雨乞いのためや穢れを払うために使用されたと考えられている。7～8世紀の出土例が多く、須恵質のものを分けて陶馬と呼ぶこともある。

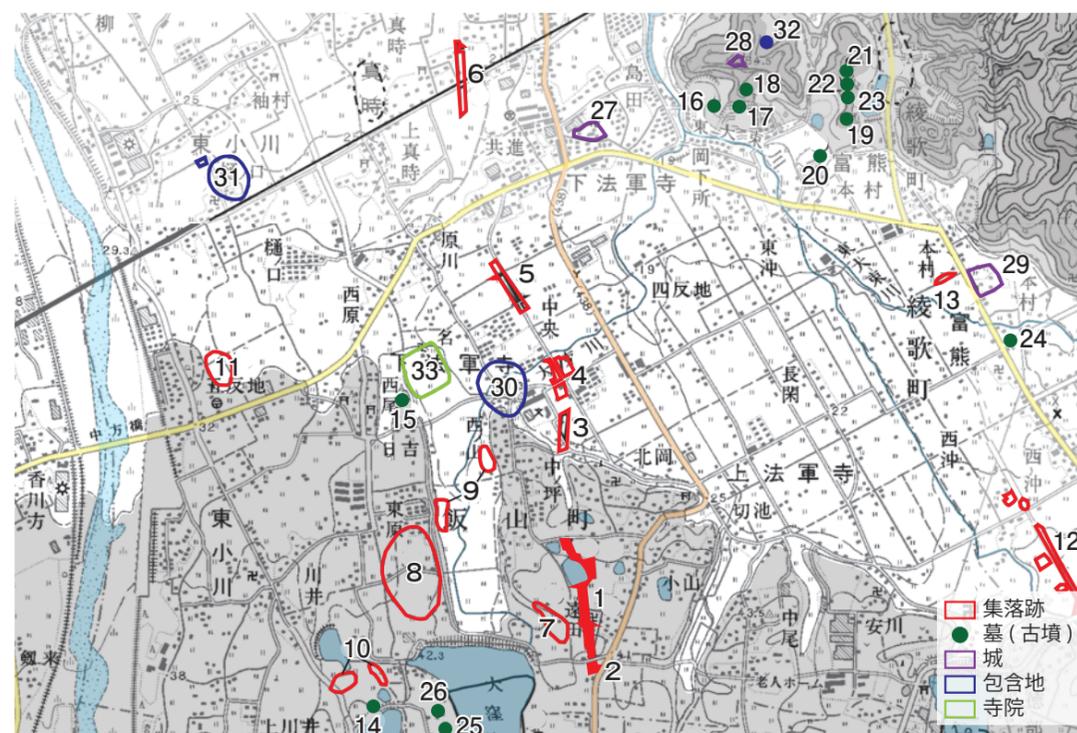
【1. はじめに】

岡遠田遺跡は丸亀市飯山町上法軍寺に所在する集落遺跡で、香川県埋蔵文化財センターが令和2年度から国道438号の改築に伴って発掘調査を実施してきました。

これまでの発掘調査面積は約9,800㎡にのぼり、弥生時代から古墳時代にかけての竪穴建物が約30棟のほか、竪穴建物付近に点在する土坑から、まとまった量の弥生土器が見つかりました。

また、飛鳥時代から鎌倉時代にかけての溝状遺構・遺物も見つかっています。

岡遠田遺跡とその周辺(国土地理院1/25000地形図を改変して作成)



1: 岡遠田遺跡 2: 岡遠田南遺跡 3: 沖南遺跡 4: 沖遺跡 5: 名遺跡 6: 岸の上遺跡 7: 遠田遺跡 8: 東原遺跡
9: 大窪谷遺跡 10: 上川井遺跡 11: 西内遺跡 12: 行末西遺跡 13: 堂ノ元遺跡 14: 前谷古墳 15: 讃留霊王古墳
16: 次郎山1号墳 17: 次郎山2号墳 18: 次郎山3号墳 19: 富熊神社古墳 20: 富熊神社神事場古墳
21: 富熊4号墳 22: 富熊5号墳 23: 富熊6号墳 24: 東沖下塚 25: 内光寺塚 26: 内光寺荒塚
27: 下法軍寺館跡 28: 法勲寺城跡 29: 新土井遺跡 30: 西の山遺跡 31: 若宮遺跡 32: 次郎山遺跡 33: 法勲寺跡

【2. 周辺の遺跡】

岡遠田遺跡が位置している岡田台地上には、飛鳥時代～奈良時代の大規模な掘立柱建物跡(3×7間以上)が見つかった遠田遺跡、飛鳥時代～奈良時代の掘立柱建物が数棟見つかった東原遺跡があります。また、岡田台地の麓には7世紀末の瓦が採集された法勲寺跡があります。

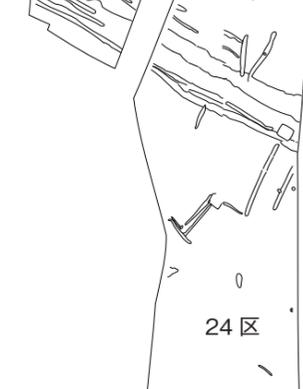
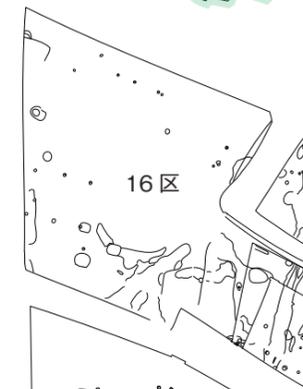
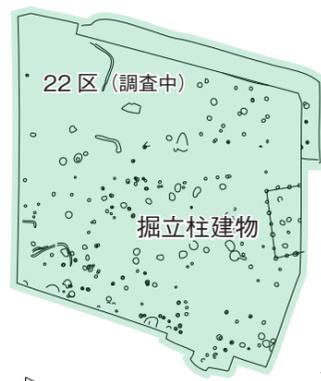
さらに、岡遠田遺跡と同様に道路建設に先立って発掘調査を行った岸の上遺跡・名遺跡・沖遺跡・沖南遺跡が道路の計画線に沿って並んでいます。岸の上遺跡では古墳時代後期の掘立柱建物が見つかり、古代の南海道の側溝と考えられる遺構も見つかっています。名遺跡では現代の地割の原型が12～13世紀に形成されたことが明らかになっています。沖遺跡からは古墳時代中期～後期の溝状遺構が見つかりました。

【3. 今回の調査成果】

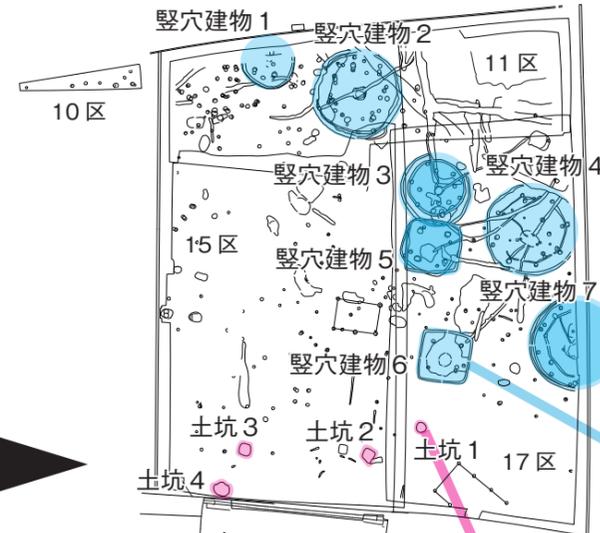
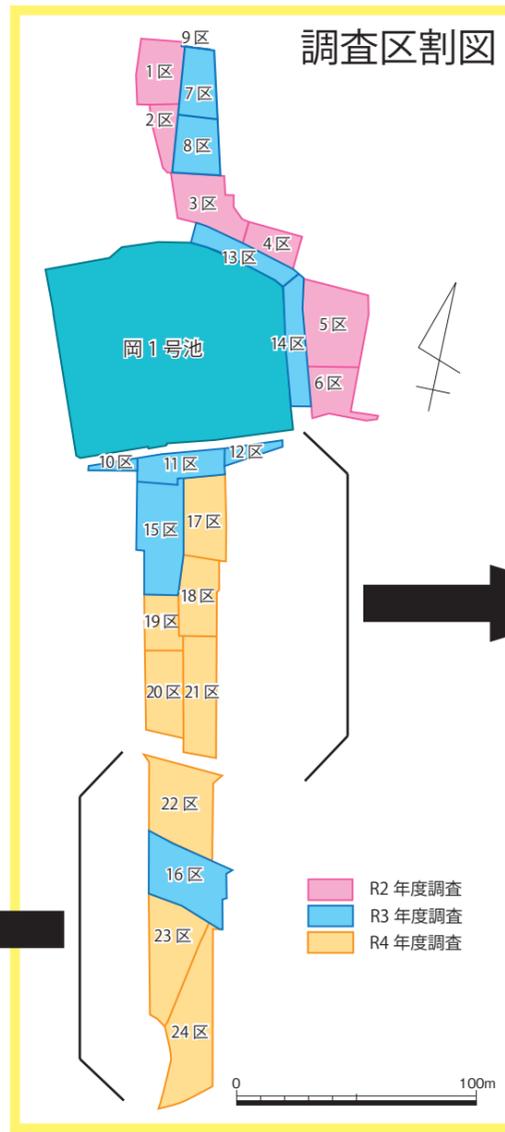
ここでは、現在調査中の22区に加え、2022年4月から発掘調査を行ってきた17区～21区、23区・24区についても紹介します。また、本日は昨年度の調査範囲である11区と15区・16区から出土した土器も合わせて展示しています。



22区で見つかった掘立柱建物



0 20m (1/600)



17区 竪穴建物6



一辺約4mの方形竪穴建物で、焼失家屋となっています。また、炭化した梁材の上で被熱を受けた粘土を確認したため、屋根に粘土を貼り付けていたことがわかりました。

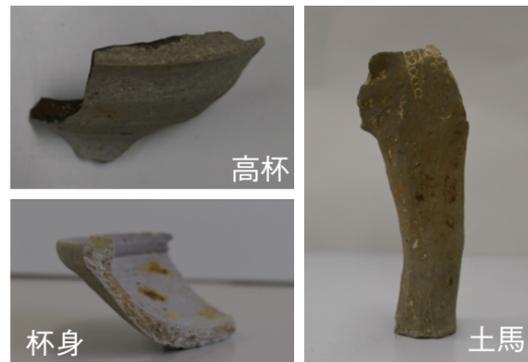
23区 溝から出土した遺物

調査区を横断して西に流れる溝が見つかりました。土器が出土した溝に色をつけています。

中央の溝からは須恵質の土馬^{どば}が出土しました。

北側の溝からは須恵器の杯身^{つきみ}が出土しました。杯身は食器の一種で、年代を求める基準になります。年代は飛鳥時代と考えられます。

南側の溝からは須恵器の高杯^{たかつき}が出土しました。脚の部分は欠損していますが、杯の部分が前述の杯身と類似しているため、同時期とみられます。



21区 竪穴建物8



一辺約5mの方形竪穴建物で、建て替えを一度行っています。焼失家屋で、屋外排水溝を地形に合わせて南に伸ばしています。また、この住居の南隣にも竪穴建物があり、東から伸びる屋外排水溝が複数あるため弥生時代の集落が岡1号池の周りだけでなく、比較的広範囲に展開していたことが明らかになりました。

17区 土坑1



深さが約50cmの土坑で、多種多様の弥生土器が出土しました。一つの土坑に土器をまとめて投棄しているため、廃棄土坑とみられます。出土した弥生土器は弥生時代後期に位置づけられます。また、近隣で3基の廃棄土坑を確認していますが、写真の土坑だけがやや新しい時期のものになります。